

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会（第 24 期・第 4 回）議事要旨

日時：平成 31 年 1 月 22 日（火）12：30～13：40

会場：日本学術会議 大会議室（2 階）

出席：窪川かおる、鈴木康弘、花木啓祐、日置光久、氷見山幸夫、山口しのぶ、小金澤孝昭、
小松輝久、田中邦明（スカイプ参加）

配布資料：

- 1) 前回議事要旨
- 2) 平成 31 年 1 月 22 日 公開ワークショップ「Future Earth と学校教育：ESD/SDGs をどう実践するか」ポスター

議題：

（1）分科会に関係する国際的・国内的動向について

以下のような意見交換が行われた。

- ・日本環境教育学会において来年度から SDGs プロジェクトを立てようとしている。
- ・マイクロプラスチック問題について生活空間にどのように存在するか、簡単な調査方法を情報発信する予定がある。
- ・FE においては当初計画には教育があったが進んでいない。地球環境研究者の教育への貢献が弱い。欧米は災害や土地利用の問題への危機感が薄く、日本が主導すべき。
- ・理学は transdisciplinary に及び腰になりがち。教育の観点から引っ張る必要がある。
- ・研究者は意見がバラバラな場合があり、SDGs のためにも学術会議が知見を集約し発信する必要がある。
- ・工学は transdisciplinary だという人たちがいるが、従来は必ずしも co-design ではなかった。工学から見ても FE は意義深く感じられる。
- ・東工大では融合学コースが始まった。国際開発／環境／原子力。国際機関への人材供給。
- ・KAN(Knowledge Action Network)は教育を提案していない。積極的になるべき。
- ・国連は FE に関わっているが、国連大学はどうか。外務省、環境省で別々の動き。
- ・FE は計画が大きくなりすぎて理解と実践が進まず、海洋では FE が語られなくなってきた。
- ・FE, ESD, SDGs の三角形をしっかりと構築することが重要。大学改革の中でも各大学で Hot Issue になりつつある。

（2）第 2 回ワークショップの開催（5 月頃）について

- ・「FE と学校教育：海の学びと人材育成」といったタイトルで、持続可能な発展のための海洋教育小委員会が中心になって実施。可能なら高校生にも参加してもらう。

- ・開催日：第一候補 6 月 2 日（日）、第二候補 6 月 1 日（土）
- ・場所：東京大学本郷キャンパス教育学部棟（赤門入ってすぐ左側）
- ・計画立案は海洋教育小委員会（日置委員長）が行い、分科会委員長が確認の後 1 月中に事務局に提出。
- ・2/1 から親委員会のメール審議。2/28 幹事会に提案。

（3）シンポジウム（学術フォーラム）の開催（7～9月）について

- ・2回のワークショップを纏めるような内容の学術フォーラムを計画する。
- ・開催予定日：9月8日（日）、場所：学術会議講堂
- ・タイトルは前回に近いもの
- ・3月1日までに申請書（下記＊参照）、親委員会のメール審議後、3月28日幹事会へ提案
- ・幹事（鈴木）が原案を作成、委員長と相談、その後にメールで報告

（4）その他

- ・次回分科会：4月16日（火） 14:30～16:30
- ・6月2日（日）はESD小委員会を開催予定とのこと

※追記：会議終了後、事務局より、学術フォーラムはテーマ募集の締め切りが2月28日（木）。メール審議のためできるだけ2月18日（月）までが望ましいが、「登壇者の調整などで難しい場合は【2月28日（木）正午】までに別紙1を提出」すること」との通知あり。